



栄光園だより
第97号
2014年10月20日発行
発行
社会福祉法人 栄光園
別府市南荘園町3組
〒874-0904 電話 (23) 2827
振込口座 01930-2-20748
編集 広報誌編集委員会
印刷 大野印刷株式会社
別府市青山1-7 電話 (21) 0505

礼拝が形造る

「愛の人格」

理事 齋藤 真行



「栄光園だより」の執筆は初めてになりますが、理事として栄光園を覚えさせて頂いている別府不老町教会牧師の齋藤真行と申します。別府不老町教会は駅前町の「不老泉」のすぐ近くに建っておりまして、来年で創立104年を迎えます。戦後牧師をされた野町良夫先生が、栄光園創立に深く関わられた、という歴史的経緯から、これまで別府不老町教会では栄光園のことをお祈りし続けてきました。

栄光園では「金曜学校」が毎週金曜日にささげられています。私も月に一度、子どもたちに聖書のお話をさせて頂いております。じーっと熱心に聞いてくれる子どもたちに大変教えられ、励まされます。私自身にとっても、「金曜

学校」は祝福の時です。

「礼拝」をあまり体験したことがない方のなかには、「二体、礼拝ってなんの意味があるの?」という疑問をお持ちの方もいらっしゃるかもしれません。そのことに少し触れさせて頂きたいと思います。

礼拝することにはどんな意味、メリットがあるのか、ということにつきまして、私は「礼拝は人格形成をもたらすもの」と考えています。学校教育のなかでも人格教育はなされておりますが、礼拝は独自の人格形成の可能性を秘めていると思います。

教会にはさまざまな方々がやってこられます。会社が倒産して失意のうちに来られる方、生きる意味を見失って、

「もう死にたい」という気持ちを持って来られる方、病氣と長年に渡って戦いながら、希望を求めて来られる方。牧師はそういう方々を前に聖書の教えを説教します。礼拝が終わって礼拝堂を出て行くときには、不思議と表情が変えられて、心に灯りがともされたようなお顔をされて、にこやかに帰っていかれるお姿を、これまで何度も何度も拝見しました。礼拝には、不思議な力があるのだな、と実感します。

聖書の教えを聞いたり、讃美歌を歌ったり、お祈りを一緒にしたりすることには、「生きるエネルギーをもらうこと」と、そして「生き方を学ぶこと」という意味があります。こうしたことを重ねることで、私たちの人格が練り上げられていくのです。どういう人格かという、一言でいって「人を愛することができる人格」が形成されていくのです。

現代社会のさまざまな課題、困難のうちで最も大切なのは、「愛を学ぶことではないか」と思わされています。というのも、一人ひとりに本当に愛があるならば、ほとんどの問題というのは、自然と解決の道筋が見えてくるものではないでしょうか。家庭、学校、病院、企業、福祉施設…どんな組織でも、その根本を支えているのは、「愛のスピリット」ではないかと思うのです。自発的に喜んで人を支えていく、サポートしてい

く、そういう意志や決意があるところでは、問題は自然に解決に導かれていくのではないのでしょうか。しかし、なかなかそうした愛を身に着けることができない、愛を学ぶことができない、というところに時代の苦しみがあるようにも思います。

神への礼拝は、こうした「愛を身に着ける」課題に込めるものだと理解しています。神を礼拝することで生きるエネルギーを心に頂き、人をどう愛して行くのかを学びます。愛を身に着けることは、仕事をしてお金を稼いだり、人とコミュニケーションしたり、組織を管理したり、新たな学習をしたり…といったことすべてによい影響を与えていきます。人生を安定化・活性化させるのにおおいに意味があるのです。もちろん、一朝一夕に変化や効果が顕れてくるような性質のものではありませんが、礼拝を重ねることによって、そうした愛の精神性、人格性が次第に陶冶されていきます。

子どもたちは目をキラキラさせて聖書の話聞いてくれます。栄光園の「金曜学校」での礼拝もまた、やがて子どもたちが青年となり、大人になって家庭や社会での役割を担っていくときに、なにか心の支えや導きとなれるようなことを伝えられれば、と祈りながら心を砕いております。



児童養護施設

夏の調理実習

ムラカミホーム

児童指導員 横大路 明子

ムラカミホームは、小学生の男児1名、幼稚園の女児5名の子どもたちが生活する男女混合のホームです。

ホームでは夏休みの8月18日調理実習に取り組みました。ねらいは昼食と一緒に作り楽しむことと、役割分担をして食事を作る体験をすることです。

この日のメニューはおにぎりと、マカロニサラダでした。おにぎりはまず子どもたちに覚えてもらいたい、楽しんでもらいたい大人の願いを込めてのメニューです。マカロニサラダはムラカミホームがお土産でいただいたデザート「マカロニ」がとても可愛かったので、みんなでゆでてサラダにして食べてみようということを決まりました。

調理実習当日、まずは食材の買い出しです。近くのスーパー「トキハイ」で「トリ」まで暑い中、皆で汗をかきながらの買い物からスタートしました。

到着すると買い物リストのきゅうり・ニンジン・ハムをみんなですーぱーのどのあたりにあるかを探します。まるで



ゲームのようです。食材を見つけた時は宝物を見つけたように「あった!」と嬉しそうに叫びます。「元氣そうなお野菜を選んでね」、「人参は何本入りがあるのかな」、「値段はいくら?」、「ハムは何枚入りかな?」としっかりと見たり触れたりし、観察して買ってみようという大人も助言をしながらのお買い物です。みんなで買い物にスーパーに行く体験が一般家庭ほどはできない施設の中でこのような食材を買いに行くという当たり前の日常体験も大切にしています。次に家に帰りついたらさっそく全員、

「深い川を越えて さあ、行こうよ。なつかしい心のふるさとまで」

ヨシユア記1章2節

青山保育所 小久保次郎

アフリカ系の霊歌が讃美歌第二編175番にあります。邦題「深い川を越えて」です。ヨシユア記1章2節に、神はヨシユアに命じておられます。『あなたはこの民すべてと共に立つてヨルダン川を渡り、わたしがイスラエルの人々に与えようとしている土地に行きなさい。モーセに告げたとおり、わたしはあなたたちの足の裏が踏む所をすべてあなたたちに与える。』約束の地をめざすイスラエルの人々にとって神のこの言葉はなんと祝福に満ちた言葉なのでしょう。わたしたちは、ときには与えられた境遇に懐疑になり、不満と不安の中で苦しむことがあります。しかし、神は苦しみの解放を与える神です。自分からも他者からも解放の福音を与える言そのものが神の言なのです。奴隷の地であったエジプトでイスラエルの民は、そこからの解放を願いました。しかし、実際、解放されてみると、飢えと渇きに苦しむ旅が待ち

構えていました。それは、また新たな苦しみの始まりでした。その苦しみの解放は、神から与えられます。この讃美歌は奴隷として苦しい状況に置かれていたアフリカ系の人々に深い慰めとなっていたことでしょう。世界の中で豊かな国となった日本でさえ、さまざまな状況下で疎外されている人々がおられます。しかし、私たちには、神がヨシユアに与えられたように希望の言があります。深いヨルダン川を越えていくときに、神は川の流れをせき止めてくださいました。人知でははかり知ることのできない神の深い配慮と計画がそこにはあります。涙と憂いで、なつかしい心のふるさとがみえないかもしれませぬ。ふるさととは過去のなつかしき土地や境遇や人ではなく、神と共にいた天のふるさとです。永遠なる神とともにいた喜びに満たされる日々が私たちに約束されているのです。本当に感謝です。

三角巾とエプロンをつけ、準備に取り掛かります。オープンな対面キッチンで常に大人が料理をしている姿が見える環境で生活している子どもたちはお手伝いも料理も大好きです。今から取り組む調理実習にやや緊張しつつも興味津々やる気満々な表情です。

マカロニをゆでるのはお兄ちゃんのA君です。湯が100度になったら、静かにマカロニを入れて、ゆつくり箸で混ぜて

いきます。火を扱うので緊張していきすが、とても丁寧で上手です。小さい女の子たち5人は、それぞれ1人一回はにんじんやキュウリを細長くカットした野菜をスライサーで薄切りにしていきます。サクサクという音も耳触りが良く嬉しそう。皆すごい集中力で取り組みます。包丁を使って切るのはハムです。職員は子どもたちの危なかつしい手つきに内心ひやひやしますが、子どもたち



はお手の物、左手を猫の手にして、しっかり包丁を握って細切りにしていきま
す。少しくらい曲がっても大丈夫と声
を掛け合いながら、大人と子ども、子
も同士の会話や触れあいのコミュニケ
ーションも活発になります。

切る作業が終わり、マカロニもゆであ
がり扇風機で熱を冷まします。ひとつ
のボールに野菜とマカロニを入れて、マ
ヨネーズと塩コショウで味付けです。み
な自分がした作業が1つになることを
嬉しそうに見つめています。

そして最後はおにぎりです。子ども
たちは好きなふりかけの味を選びます。
好きな味になったご飯をラップに取り、
三角おにぎりも初体験です。みな、夢
中で三角にします。子どもたちには大
人の分も握ってもらいます。〇〇ちゃん
は〇〇姉さんの作るよ、と誰かの役
に立つことが何より嬉しそうです。小
さな小さなおにぎりの完成。とても上
手に握れました。

「いただきます」と自分が握ったおに
ぎりとマカロニサラダに、達成感いっぱ
いの表情と会話でテーブルは大賑わい。「こ

れ、俺がゆでたんで」「〇〇ちゃんはハムを
切った」と口々に、自分の関わったところ
を嬉しそうに話します。「楽しかった」と
いう感想が多く、五感全体で楽しむ調理
実習は大成功に終わりました。

今回の調理実習を通して感じたこ
とは、子どもたちは料理をすることが
とても好きだということです。大人が
思っている以上に覚える能力も優れてい
ます。日頃の積極的なお手伝いが食への
興味に繋がっているということ。そし
て、料理を体験することが、食材に触れ
食材を知り、食べる力をさらに育てるこ
と。将来自立し生きる力に繋がるとい
うことや将来の家庭形成に役立つと信
じていることができました。今後も定期的
に取り組んでいきたいと考えています。

乳児院

お誕生日おめでとう！

乳児院では、お誕生日を迎える子ど
もたちの誕生会を行っています。お誕生
月には、ケーキ屋さんにも子どもの好きな
キャラクター入りのケーキを注文し、子
どもたちと職員でお祝いをします。そ
の日は特別に記念撮影とケーキのロー
ソクの火を消すという大役があり、みん
なの注目の中ちよっぴり恥ずかしがり
ながら、カットしてもらったケーキを美
味しそうにほおばっています。このこと
が子どもたちの記憶の一つに残ってもえ
れば良いなと思っています。



「お食い初め」って ご存知ですか？



赤ちゃんが誕生して100日
120日目頃に行く「お食い初め」とい
う儀式がありますが、生後2か月〜3
か月の頃に入所してきた子どもは乳児
院で「お食い初
め」のお祝いを
します。

これは「赤
ちゃんが一生
食べ物に困り
ませんように」
という願いを
こめて、鯛の尾
頭付きとお膳
を用意しても



らい食べるまねごとをするというもので
す。今はもう簡略化する家庭もあるよ
うですが、乳児院では生まれて間もない
小さい子どもたちがいるからこそやって
あげたい(続けていきたい)行事の一つだ
と考えています。

これから、なんでも食べてたくさん遊
んで大きく育ててね。

「あっ！あーっ」 (これなあに?)



ある日の午後、子どもと職員が園庭
で何かを見つけています。子どもはま
だおしゃべりができませんが「これなあ
に？」と聞いているように手を差し出し
ています。職員は「これはなんだろう
ね？」「葉っぱかな？」とこたえます。子
どもは満足したようにまた次の葉っぱ
を取って見せていて、そばにいた職員も
つい微笑ましい気分になりました。

子どもたちはまだ言葉にはできませ
んが、表情や「あっ！」「あーっ」という声
で何かを話しかけていることがありま
す。私たち職員はそんな子どもたちの
サインをキャッチして、「うね」「うした
いのね」と言葉で返してあげています。そ

青山保育所

認可保育所の研究会

の繰り返しの中で子どもは私たち大人を信頼してくれるようになり、私たちも子どもへの理解ができるようになります。私たちは「言葉を使わないからわからない」ではなく「言わないからこそ分かる」とする「姿勢で子どもたちと向き合い、いつもそばにいる」という安心感を子どもに与えられるようにしています。

次は何を見せに来てくれるのかな？楽しみます。

別府市の認可保育所では毎月1回、各園より主任保育士と保育士1名が参加して、共同研究会を設けています。別府発達医療センターの先生を講師に招き、講義を聞いたり、グループに分かれて演習をしています。先月は講師のお話に「言葉が出ない」または「言葉が出てく」「子どもについての話があり、言葉が出ない(出にくい)子どもに対して身近な大人はどんな関わりをしたら良いのか」というお話がありました。これはこれからおしゃべりが始まる1、2歳の子どもの関わりにも言えることです。

○言葉を発するようにするには喋り出す前の段階がとても大切。

・そのベースには「生活リズム」体を動かす「豊かな感情」

・言葉を発しなくても、指差しなどのジェスチャーで自分の意思を伝えよう

とした時には具体的な言葉を知らせながら要求を満たしてあげること。

○語尾だけの言葉が出る場合には、単語を区切って知らせていく。

例えば「ブロック取って。」の「て」だけの語尾が出る場合は「ブロック?」「取って?」と単語を区切って子どもに言葉で置き換えて知らせていくこと。

○「サカナ(魚)」を「カサナ」という等、文字の入れ替わりがある子どもの発音についてはそれを認め、言い直しはさせないこと。

・その都度「サカナ(魚)だね」と正しい言葉を聞かせるようにすること。

このような話がありました。やはり身近な大人が子どもに様々な経験をさせてあげることと、たくさん言葉のシャワーを浴びせてあげることが子どもの言語発達にとって大切なのですね。

トウモロコシの皮むきをしたよ!!

1歳児のおともだちは水遊び前に、おやつに食べるトウモロコシの皮むきをしました。見慣れた黄色いトウモロコシではなかったのが、最初はなかなか手が出ませんでした。少し先端の皮をむいてみせると自分もやってみようと思っただようで手を出していました。両手でしっかりと持って皮をむいていましたよ。皮をむいて黄色い粒が見えてくると、「あつ!!」「黄色い粒が(みえた)ねえ。」と嬉しそうでした。中には皮むきが楽しかったようで、「もうおしまいよ。」「プールに入るよ。」と声を掛けても「いや!!」とトウモロコシを手離さなかった

子もいたほどでした。これからのいろいろな野菜に触れる機会をつくっていきましょう。

大成功!!

ぞう組2年生がカレー作りに挑戦しました。今まで何度かクッキングを経験したこともあり、皮むきや野菜を切るなど、どの子どももとても積極的に取り組み、交代でお鍋の中を混ぜたりとみんな協力して作ることが出来ました。ぞう組1年生の分も作ってくれ、1年生のお友だちからも「おいしい!!」とたくさん言ってもらえて、とても嬉しかったです。2年生のお友だち。3つあったお鍋はあつという間に空っぽになり、とてもおいしいカレーライスだったことが改めて伝わってきました。後日、家でも親子でクッキングをしたなど嬉しいお話を聞くことが出来ました。もし機会があれば、是非お家でも親子でクッキングをしてみてくださいね。きつと子どもたちも張り切っていますよ。☆



一年の半分が過ぎましたね

4月当初は、1歳児としてスタートした子どもたちも、半年経った今では、自分の意思を「これ何?」「これがいい。」



「好き!」「いや!」「しっこでる!」などと言って簡単な言葉で表現するようになって来ました。以前は、泣いたり、指差ししたりして自分の気持ちを伝えようとしていたのですが、2歳を過ぎると、徐々に言葉で相手に自分の意思を伝えようとするようになり、成長を感じています。4月に2歳児としてスタートした子どもたちも、自分の意思をはっきりとした口調で相手に伝えることも多くなってきました。「公園にパパとママと行った。楽しかった。」など嬉しそうに報告してくることも多くなってきました。それと共に友だちへの関心も芽生えて、お互いに名前を呼び合ったり、同じ場で微笑みあい、保育者の仲立ちはありませんが「かして。」「あとで。」「いいよ。」など貸し借りも出来るようになってきました。また子ども同士でも、楽しそうな会話を交わしながら、遊ぶ姿も見られるようになってきました。今後、動作に言葉を添えたり、自分の気持ちや相手の気持ちを言葉に置き換えていきながら、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを感じてもらいたいと思っています。また子どもたち一人一人への語りかけを大切にしていきたいながら、自分の意思をはっきりと相手に伝えることができる子どもにもなってほしいと思っています。

カブトムシとクワガタ博士誕生!

毎朝、登園してくると「飼育箱からカブトムシ、クワガタ出して。」と言って3歳児の男の子たちは目下カブトムシとクワガタに夢中です。「これはノコ

ギリクワガタ、あれはヒラタクワガタ。」
 と言って図鑑を広げては角の形の違い
 などしっかりと見比べて観察していま
 す。そしてクワガタとカブトムシの戦い
 を応援しながら、「クワガタの方がカブ
 トムシより強い。カブトムシを持ちあげ
 るんだ！」と感嘆の声をあげています。
 幼虫からさなぎ、成虫へと時間をかけて
 成長していくプロセスを毎日観察してい
 た子どもたちです。身の回りの生き物
 が時間をかけて成長していくことを実
 感しているようです。今、飼育箱の中
 はカブトムシの卵が産まれています。「卵
 があるからそーっとしとかなと。」と、子
 どもたちが言っています。生き物の成
 長を見守る人間らし
 い優しい感性が育っ
 ていることを嬉しく
 思っています。



追い越せ！ 追い抜け！ 運動会練習

運動会に向けてかけっこやリズムプロ
 グラムの練習をたくさんしました！
 かけっこではみんな本番のような眼
 差して走り出して練習でも真剣勝負を
 していました。負けてしまった子どもは
 悔しさから思わず泣いてしまう場面も
 見られましたが、次は負けないとすぐに
 気持ちを切り替えることが出来てみな
 な気持ちも大きく成長していますね。
 リズムの練習では、踊りの振りやす
 くに覚えて毎日楽しく踊っています。
 振りの中に可愛く腰を振る部分があ
 るのですが、練習を重ねるごとに動き
 にキレが出てきてとってもみんな素敵
 に踊れるようになってきました！本番
 もご期待ください！



野口保育所

蒸し暑くて雨の多かった夏も終わ
 り、朝夕も涼しくなり吹く風には金木
 犀の香りが漂い：だんだんと秋が深
 まってきました。考えるとも今年も残す
 所2ヶ月：時が経つのは早いものです。
 毎日を大切に子どもたちと過ごしてい
 たいと感じる今日この頃です。

野口保育所の子どもたちは、季節ご
 とに色々な行事に参加したり、季節な
 らではの遊びを友だちや保育士と楽し
 みながら毎日を楽しんで過ごしていま
 す。そんな夏から秋にかけての様子を
 少しずつですが、ご紹介していきたいと
 思います。

プール遊び

毎年子どもたちが楽しみにしている
 プール遊び：保育士達が力を合わせて
 園庭にプールを出すと子どもたちが目
 を輝かせて、「プールだー！やったー！」
 と大喜びします。
 今年は雨が多
 く、毎日お天気
 とにらめっこし
 ながらのプール
 遊びとなりまし
 たが、晴れた日
 には夏ならではの
 プール遊びを
 満喫していたよ
 うでした。



夏祭り



8月2日(土)
 に「夏祭り」が
 行われました。
 天気は曇り時々
 雨でした。その
 ため、初の室内
 での夏祭りにな
 りました。今年
 は「元祖 夏祭
 り！」をテーマに
 昔めいたお神輿
 を「わっしょい！
 わっしょい！」と

年長・年中組が元気に担ぎ、園児みん
 なで手をつなぎ盆踊りを踊ったりもし
 ました。ゲームの景品も毎年好評で手
 作りなので、保護者や地域の方にも喜
 ばれました。そして今年も卒園児もご
 招待しようと、夏祭り前にハガキを出
 した所、たくさんの方の参加があり、「来た
 いけど中々来れないから、ハガキをくれ
 てとても嬉しかった。」との嬉しい声
 も頂いたのです。これからも機会があ
 れば、色々な行事にも招待していき
 たいと思います。

また、今年も「上戸次こども神楽」
 をみんなで鑑賞しました。子どもたち
 も保護者の方も職員もみんな子どもた
 ちの舞を見て感動しました。雨が降っ
 て残念でしたが、今年も楽しく無事に
 終わりました。これからも毎年、新た
 なテーマに沿って楽しい夏祭りになら
 ないと思いません。



お月見会

9月8日に全クラスでお月見会をしました。お月見会にお供える団子を今年5歳児の子



どもたちとウサギ団子を作りました。こねて、丸めて顔などを食紅で書いたりと、少し難しかったです。集中しながら可愛い団子が出来ました。会では、小さいクラスもお話をよく聞いて理解できていてお月様の話をお家の方にたくさん話されたようでした。

お月見会の後は、みんなでソーメン流しをしました。2歳児から5歳児まで流れるソーメンを楽しく食べ、1歳児はテラスでソーメンを食べ、みんなで楽しい雰囲気の中でソーメン流しを楽しみました。やはりみんな一緒に戸外で食べるのは美味しく感じるようで、いつも以上に増しておかわりをしていました。またひとつ楽しい行事になりました。



敬老の日のお楽しみ会

9月13日には、15日の敬老の日を兼ねて子どもたちのおじいちゃんおばあちゃんを保育園にご招待しました。

お楽しみ会では、おじいちゃんやおばあちゃんに歌のプレゼントをしたり、一緒に「おにぎり」を作って給食の時に一緒にいただきました。おじいちゃんやおばあちゃんが孫の手を優しく持つて一緒に作る姿はとても微笑ましかったです。おじいちゃんおばあちゃんから「あまり遊びに来てもらえないから、嬉しい!」や「たまにしか会わないので、成長ぶりにビックリしたわ」など、たくさんの声が聞かれました。これからも、このような機会を作っていきたいという気持ちでいっぱいになりました。



今夏の8月24日(日)、満席の会場・別府のビーコンプラザで、あの世界的なサクソ奏者「ナベサダ」のコンサート「渡辺貞夫と子どもたち」(シエアー・ザ・ワールド in Beppu)が行われ、そのバックコーラスを子どもたちが挑戦し、大成功を収めた。子どもたちにはそのことがかけがえのない大きな経験だと感じるのは数年後のことだろうが:

この春、栄光園の支援を長くしておられる、ジャズ大好きな山口産業の山口巧様から渡辺貞夫さんに別府で子どもたちと共に演奏して欲しいと頼んだらOKが出た。別府の三施設で力を合わせて協力をとの話をいただいた。実際、文化や芸術に乏しい環境の中で育ってきた子どもたち、音楽に関心があるか心もとない子どもたちにこのようなことができるなど想像ができなかった。

光の園や平和園とのコラボができるのか、施設間の実力の差はないのか、5月のはじめから取り組む中での不安はぬぐいようが無かった。そして7月21日ご多忙な中おいていただいた渡辺さんとの初練習。子どもたちの心をサクソに合わせがっちり捕らえ、「もう本番大丈夫」とのお墨付きをいただいた。渡辺さんの魔力にかかった子ども

渡辺貞夫と子どもたち

～シエアー・ザ・ワールド in Beppu～

♪♪♪♪♪ 榎本 薫

私たちは歌唱指導を積極的に受け入れ、歌の練習を自分たちの楽しみとして、当日に向けて励んだ。演奏会終了後の打ち上げでの子どもたちとの寛容で心優しい交流にも私たちは心打たれた。子どもたちに本物を味わって頂くことができ、ことばに尽くせぬ大きな宝となった。企画し、歌の練習を指導され、本番へプログラムを滞りなく進めてくださった多くの皆様へ感謝いたします。



イングリッシュキャンプ

English camp 江口 敏一

多くの方たちの支援によって、栄光園の子どもたちに今の生活と未来の展望が開かれていることは感謝に堪えない。そのご支援いただいている団体の一つにSBI子ども希望財団がある。

3年前の小規模グループケア棟改築に際し、ダイニングテーブルや厨房機器のオープンレンジ等をご寄附いただいた。また、職員の専門性を高める高度な研修プログラムを企画し、児童養護をハード面およびソフト面から支援されるなど、一般企業のノウハウを児童の自立支援と福祉向上に寄与している財団として名高い。

児童福祉法によると、子どもたちは高校進学ができなければ働かざるを得なくなり、それは自立とみなされ、施設を退所しなければならぬ。現在は高校進学ハードルが低くなり全入の時代となったのは子どもたちにとってさいわいではある。一方、大学や専門学校に進学すると自立していないとみなされ、20歳まで施設に在籍することができる。

SBI子ども希望財団は、施設整備や職員養成支援の先にある子どもたちの自立支援こそ目指すべき目標と考え力を注いでいる。施設での生活を余儀なくされた子どもたちが社会に巣立っていく時、自分の力でしか道を切り開く術がない。この困難で狭い人生の選択肢をいくらかでも広げようと英語力の実力養成に乗り出したのである。

その手始めとして、この春、今はやりのスピードラーニングを希望する子どもたちに取り組んでもらいたいとの申し出を受けた。早速、APUの学生(トンガのエダさん)を英会話の講師として招き、小学生高学年を中心に週1回の英会話教室が実現した。

その延長上に、埼玉県秩父の青少年総合野外活動センターでのイングリッシュキャンプ招待があった。始めたばかりで実力は心もとないが、栄光園の子どもたちの中から希望する5年生2名の参加を申し込んだ。8月17日、初めての雲の上を飛んでの東京行きに興奮した旅の始まり。スタッフのほとんどがいくらか日本語が理解できるアメリカ人とカナダ人、秩父の山中でのテント暮らし、食事もほとんどがアメリカ風の自炊、スポーツ、ゲームや山歩き、すべてが密度の高い英語で物事を考える世界に接し、子どもたちにとっては英語に対する関心が確かに高まった6日間であった。

これを機会にAPUのパパアニューギニア、インドネシア、ナイジェリア、インド、スリランカなどの学生さんが頻りに栄光園へ来訪され、国際色豊かな栄光園になりつつある。



運動会

9月27日に運動会を行いました。今年には台風にも会わず…良い天気での開始となるはずでしたが…途中ポツポツと雨が降ってきました。でも、途中から快晴になり無事に終わる事が出来ました。

子どもたちはどのプログラムも真剣にそして楽しんで取り組んでいました。子どもたち一人ひとりが今までの取り組みの成果を出せており、お家の方に「よく頑張ったね!」と誉められとても嬉しそうなお表情の子どもたちを見ると、またひとつぐんと成長できた私たち職員も嬉しかったです。



食育

クッキングや夏野菜の収穫、これからは芋ほりなどたくさんの食育を子どもたちと行えるように、食育チームで計画しています。8月にはうどん作りや夏野菜(トマト・豆・きゅうり)の収穫、9月にはおはぎ作り、10月には芋ほりや団子汁作りなど…子どもたちが食に興味を持って楽しく食事をしたりできるようにしていきたいです。

これから年末に向けてまた行事などもあるので、子どもたちと楽しく過ごしていきたいと思えます。



栄光園のご支援者

ご支援ありがとうございます。

栄光園は多くの皆様の継続した温かい思いによって支えられてきたことを心から感謝いたしております。皆様のこのような思いは、子どもたちの成長に、また、働く私たち職員の励みに大変大きな力となっていることをいつも嬉しく思います。皆様の上に神様の豊かな祝福があります。皆様のお祈りいたしております。

2014年7月1日より2014年9月30日まで

2014年 賛助金

- 新江 基二様 横浜市
- 伊勢 方信様 別府市
- 國方 智之様 別府市
- (有)コワ精起様 東京都
- 坂本長平商店様 別府市
- 匿名 名様 別府市
- 高安 淳二様 別府市
- 松本 常圃様 別府市
- 山口産業(株)様 別府市

2014年 一般寄付

- アン動物病院様 別府市
- 井口 順子様 別府市
- 江口 敏一様 別府市
- 塩 雄司様 別府市
- (財)青少年交流振興協会様 別府市
- 関 弘様 別府市
- 匿名 名様 別府市
- 匿名 名様 別府市
- 匿名 名様 別府市
- 萬松寺久恒正典様 別府市
- 村瀬久美子様 別府市
- 山口産業(株)様 別府市

2014年 特別物品寄付

- 教材スピードランニング
- SBI子ども希望財団様
- 子ども服 芦刈和夫様
- パン多量 南荘園町自治会長阿部勝之様
- ぬいぐるみ・洋服等 うえやま様
- みかんジュース 梅田健一郎様
- 寝具等 川村二八様
- アイスクリーム多量
- 九州アイスクリーム協会様
- 納豆多量 九州納豆組合様
- パン多量 ココラート様
- ぶどう児童分 首藤一夫様
- 絵本・ノート等 白石祐三子様
- 麵 杉町圭蔵・千穂子様
- 梨くまもん菓等 袖潤三枝子・水谷恭子様
- タオル他 竹田由加様
- 野菜多量 匿名 名様
- 紙飛行機 匿名 名様
- 衣類・洗剤・文具等 中村里子様
- 梨 南光物産様
- 野菜多量 二宮洋典様
- 生活用品・おもちゃ等 花本きみえ様
- お菓子・飲料水等
- 匿名 名様
- 動物図鑑他 ビーナスギャラリー別府店様
- お菓子・果物等 東南・留美子様
- 花火・お菓子等 萬松寺久恒正典様
- タオル・トイレットペーパー等 南荘園町自治会様
- 衣類等 メイク・ア・ウィッシュユオオブジヤパン様
- パン多量 モコモコ別府店様
- ワールドカップサッカーボール 村瀬久美子様
- Tシャツ (株)ゆうちょ銀行様
- 山口産業(株)様

2014年 改築寄付

- 木本 忠様 大分市
- 別府不老町教会様 別府市

2014年 招待・奉仕

- イングリッシュキャンプ招待
- SBI子ども希望財団様
- 小・中学習指導 安東秀典・井上せつ子様
- 絵本読み聞かせ等 お話ボランティア様
- 児童のヘアークット Kヘアー様
- グレースホーム音楽演奏
- 白沢史子・あいり様
- 佐藤菜・恵子様
- 村津忠久様
- 山口産業(株)様

賛助会員募集

年会費、一口千円、但し、何口でも、分割も可。ご連絡いただければ職員が参上します。栄光園賛助会事務所は、別府市南荘園町3組です。賛助会員の皆様には、栄光園の広報誌「栄光園だより」を送付させていただきます。

クリスマス祝会のご案内
12月20日(土)14時より

児童養護施設 栄光園では、毎年12月の第3土曜日クリスマスの祝会をホールにて行っております。本年度は、12月20日(土)14時より礼拝と祝会が始まります。その後、会食となります。年末のお忙しい中ですが、心を静めてイエス・キリストのご降誕を子どもたちと共に祝いしていただければ幸いです。お立ち寄りいただければ幸いです。

参加費は無料で、お志等は固く辞退させていただきます。

社会福祉法人 栄光園 2014年度7~8月職員の間静

退職	採用
● 8月31日付退職 ● 児童養護施設 今村 聡真 (児童指導員)	● 7月1日付採用 乳児院 衛藤 美央 (夜勤業務)
● 9月1日付退職 ● 児童養護施設 若杉 忠志 (保育士)	● 8月1日付採用 乳児院 上米良清香 (看護師)
● 8月31日付退職 ● 児童養護施設 中野美沙子 (調理員等)	



苦情等相談窓口

*法人および各施設での苦情等は下記の連絡先へご相談ください。
tel.0977-23-2827
fax.0977-23-7520
mail eikoen@live.jp

編集後記

このところ異常気象に心が痛みます。生きる上で必要な作物の収穫にも大きく影響するでしょうし、何より土砂災害・風水害災害に会われた方たちへの痛みが癒されるようにとお祈りするしかありません。栄光園でも台風のため楽しみにしていた夏の行事の取り止めがありました。でも、心に残る素晴らしい思い出もありました。小学5年生が秩父の山奥でアメリカ人やカナダ人らと1週間のイングリッシュキャンプに参加したこと。世界的なサックス奏者渡辺貞夫の別府で開催されたコンサートに市内の3施設の子どもたちがコーラスで共演できたことです。一流の奏者の本物の音楽に出会った時の子どもの変化を目の当たりにして、プロの子育てのあるべき姿を問われているようにも思いました。(敏)